

県政 NEWS

武田 翔

Takeda Sho

Innovation

新しい発想・技術・価値観で未来を創る。

【編集発行】 武田翔 政務活動事務所 〒222-0011 横浜市港北区菊名1-6-11 平田ビル3階
TEL 045-947-2712 FAX 045-947-2713
E-mail : info@shotakeda.com Facebook 武田翔

プロフィール
昭和56年生まれ
神奈川県議会議員(2期)
米国・カリフォルニア州大を卒業後
参議院公設秘書を経て
平成27年神奈川県議会議員選挙
横浜市港北区に初当選。
一児の父でもあり
子育てと教育政策に
力を注いでいる。

新綱島駅の工事の進捗状況について

港北区内では2017年に首都高速横浜北線が開通し、来年3月には相鉄線と東急線がつながります。このように新たなインフラの整備が進み、そして確実な発展が見込まれる地域は、神奈川県内では港北区において他にないと思っています。

このような変革の大きな節目に県議会議員の職責をお預かりしていることの重みを実感する日々です。

9月中旬に、来年の開業に向けた新綱島駅の現状について見学の機会をいただきましたのでお知らせします。



新綱島駅北側にある出入口から駅構内へ



改札口のイメージパース (JRTT鉄道・運輸機構)



現在の改札口付近の様子

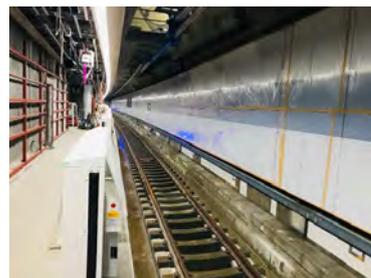
地上出入口から長い階段を2回降りて、地下1階の改札口へ。工事用の機材や道具などが整然と並べられていました。



駅ホームのイメージパース (JRTT鉄道・運輸機構)



現在の駅ホームの様子①



現在の駅ホームの様子②

綱島は代々、鶴見川の近くで発展してきました。「水のきらめき」というコンセプトのもと、新駅は青や水色を基調とし落ち着いた雰囲気印象的です。ホームドアも様々な種類の車両に対応するため、間口が広がっています。

外国人技能実習制度を考える

わが国における「外国人技能実習制度」の対象職種は、農業、漁業、建築、食品製造、繊維・衣服、機械・金融関係など多岐にわたります。すべてを把握することは難しいですが、今回は農業について考えてみたいと思います。

農業は、地域によっては技能実習生の活躍で成り立っている部分が多いのが、いまの日本の現状です。いかにして実習する側と受け入れる側のWIN-WIN 関係を維持していくか。これは特定の機関や企業に限らず、自治体や国などの大きなレベルで考える必要があります。

現実には、日本人が従事を敬遠するような就労環境と、所得の低い諸外国で働くよりも、日本で技能実習生となって働いた方が収入を得やすいという労使のマッチングによって成り立っています。劣悪な環境下で酷使されるというイメージがありますが、個別の事情によります。繁盛期には月額約30万円もの報酬を得ている方々もたくさんいます。

農業に関しては、1年中収穫ができる農家であれば、技能実習生もその場所に定着し、安定した収入を得ることができます。しかし多くの農作物は、冬に収穫することができず、夏季の短期間だけ技能実習生となって繁盛期の約7ヶ月間を懸命に働けば、残業代を含めて200万円を稼ぐことも可能です。その場合、生活費を引いても100万円位は残ることとなりますが、短期であればあるほど、技能の定着とはかけ離れてしまうため、本来の技能実習よりも収入を得る手段としての側面が大きくなってしまいます。



武田撮影@長野県川上村



武田撮影@長野県川上村

あるレタス農家のもとで学ぶ技能実習生の就業時間帯ですが、出荷の最盛期には午前2時から始まります。暗がりライトで照らしながらレタスの収穫や出荷準備を行ない、朝食が済んだら新たなレタスの植え付け。そして午後は、雑草とりや別の畑を耕すという重労働の現場もあるといいます。また土日の返上も少なくありません。レタスも、広大な農場では1回ですべて収穫するのではなく、収穫時期をずらしながら次の作付けを行います。

先の大戦後、私たちは経済発展を成し遂げ、現在の豊かな社会を築くことができました。その一方で「3K」と呼ばれる条件の厳しい仕事を避けるようになってきました。そうした部分の埋め合わせを、技能実習生の方々に担っていただいているのが現状です。外国人も日本に来て最初から田舎暮らしをし、納屋のような場所で寝泊まりする事は何も問題なくできるのですが、いったん都市部のワンルームなどで生活をした後には、田舎での粗末な宿泊には耐えられず、その結果、逃げ出す人も少なからずいると聞きます。

今の私たちの生活を維持しつつ、技能実習制度が一人でも多くの人にとって役立つためにはどうすればいいのか、みんなで考えなくてはなりません。そして、技能実習制度で日本へ来た外国人が、母国に帰った後に役立つ技能を習得できることが大切であることは言うまでもありません。